

開講科目名 / Course	在宅看護学概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	在宅看護学概論では、在宅看護の基本的な考え方と援助方法を学習する。在宅療養者とその家族の意思を尊重した援助を行うため、法令や制度、社会資源について理解を深め、多職種連携や協働、ケアマネジメントを通じた看護を学ぶ。	
到達目標	1. 在宅看護の基本的な考え方と援助方法を説明できる。 2. 在宅療養者とその家族の意思を尊重した援助を説明できる。 3. 在宅看護に関する法令や制度、社会資源について説明できる。 4. 在宅看護における多職種連携や協働、ケアマネジメントについて説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 在宅看護の目的と特徴、対象者 02. 在宅看護に関わる法令・制度 03. 在宅看護に関わる制度の活用 04. 地域包括ケアにおける訪問看護・地域連携 05. 在宅看護における看護師の役割 06. 在宅看護・訪問看護ステーションにおけるマネジメント 07. 在宅看護における生活援助の方法 08. 在宅看護における看護展開の方法	
その他の授業の工夫	学生が主体的に学ぶため、グループワークや発表、意見交換等のアクティブラーニングを実施する。	
時間外学修	事前学修：次回の学修内容について、事前に配布する資料や教科書を用いて予習する（8h）。 事後学修：授業で学修したことを整理し、獲得した知識の定着を図る（12h）。また、学修した内容を基に課題レポートに取り組み、自分の考えをまとめる（2h）。	
評価方法と評価割合	出席時間数の3分の2以上の出席を評価要件とする。 平常点：10%（発言等の積極性）、レポート・提出物（40%）、筆記試験（50%）	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1]（医学書院）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2]（医学書院） 強みと弱みからみた在宅看護過程（医学書院） ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開（ふくろう出版）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 大矢七瀬：病院での勤務および地域での母子への支援実務経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションの管理者
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護学の知識や技術について教育する。	